

令和4年度第1回庄内町スポーツ推進審議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年1月11日(水)午後1時27分～午後3時55分
- 2 開催場所 庄内町役場B棟会議室1
- 3 出席者 齋藤正明、富樫 希江、齋藤 禎、加藤則代、佐藤義徳、池田 理、佐藤博文  
佐藤正美、齋藤雅志
- 4 欠席者 金子清志
- 5 事務局 佐藤教育長、阿部社会教育課長補佐、齋藤社会教育課主査兼社会教育係長  
林社会教育係主任

- .....
- 1 開 会 社会教育課長補佐
  - 2 諮 問 諮問第1号「庄内町スポーツ推進計画(案)について」
  - 3 挨拶 教育長
  - 4 会長挨拶 佐藤正美会長
  - 5 議事録署名委員の氏名 富樫 希江 委員 池田 理 委員

6 協 議

(1) 庄内町スポーツ推進計画(案)について

第1章 「計画の基本的な考え方」 資料に基づき、事務局説明

【委員】3 計画期間 町の総合計画の表記について、資料では第3次となっているが第2次のため修正をお願いしたい。併せて、第4次は第3次となる。

【会長】現状と課題について、町民幸福度アンケートにおいてスポーツ環境の重要度は高いが、実際スポーツ活動をしている人が少ないという結果となっており、その差を埋めていきたいとのことであった。健全者と障がい者がハンデなく取り組めるスポーツは何かないかと考えたときに、ポッチャが思い浮かんだ。総合体育館や体育センターにテープでラインを引いてやってみた経緯がある。現在行っているスポーツをやっている人に声をかけても施設の利用拡大には繋がらない。活動している割合と満足度の割合はほぼ同じなので、活動している割合と重要度の差を埋めるためには、新しいスポーツを取り入れていくことだと思う。それにより、施設の有効利用にも繋がっていく。町のスポーツ推進委員と協力しながらモルックやポッチャなどを広めていく活動を行っていききたい。また、計画の文言に「町全体として既存施設の有効活用について考えていきたい。」とあったが、施設の稼働率の状況について事前に資料をもらっておりその中で立谷沢体育館の利用状況を確認するために、まちづくりセンターにいった確認をしてきた。令和元年度の稼働率が4%であり定期利用が週1回、個人利用等入っていたが、今後は定期利用が入らないため、更に稼働率は下がるものと思われる。施設を見せてもらったが、床はきれいに清掃されており整備されていたため、とてももったいないなと感じてきた。今度は、地域の施設でもあるが、ポッチャやモルックなど種目別に専用の施設として利用し、稼働率を上げていくことも考えていかなければならないのではないかと思った。

## 第2章 「基本構想」 資料に基づき、事務局説明

【委員】1 基本目標の文言に「社会体育」という表現があるが、現在「体育」という表現を使わなくなったため、「体力増進」としたらどうか。

【事務局】修正する。

## 第3章 「施策の展開」 基本方針1 ライフステージに応じて楽しめるスポーツの推進 資料に基づき、事務局説明

【会長】施策指標の部分で、計画期間の令和5年度から12年度まで8年間あるわけだが、現状値の令和元年度と目標値の令和12年度を比較すると約22,000人増となる。現状値を令和5年度として計算すると、1ヵ月あたり約200人ずつ増加していくという目標になる。見直し時期の令和7年度の数値を目標におかなければ、あまりにも先のことで緊急性がないように感じるため、令和7年度の数値もやはり入れた方がいいのではないかと。

【委員】教育振興基本計画の後期の計画において、同じく利用者数の評価指標の表記があり、そこには令和7年度の目標値として270,000人となっているので、その数値をそのまま利用すればいいのではないかと。ただし、八幡スポーツ公園のウォーキングコースについては人数を正確に把握できないため、人数には入っていない。しかし、今年度4月から12月の利用は概ね1日当たり20名前後は歩いているようである。その数値を入れるとすれば、もう少し上がると思う。令和2、3年度はコロナで施設の閉鎖時期もあり参考にならないということであったが、今年度11月までの利用は約15、6万人なので、年間約17、18万人の利用が見込まれる。徐々に回復はしているが、コロナ前の令和元年度までにはまだ戻っていない。

【事務局】他の委員の皆さんの意見も中間値として入れた方がいいということであれば、こちらで令和7年度の数値を入れたい。

【会長】推進体制ということでPDCAのサイクルのもと進捗管理をしていくということであることから、見直し時期の令和7年度に一度目標を立てて推進した方がいいと思う。

【事務局】中間値として令和7年度を入れるようする。

## 第3章 「施策の展開」 基本方針2 競技力向上へ向けたスポーツの推進 資料に基づき、事務局説明

【委員】有資格指導者の実態把握をするとあるが、早急にしたい方がいいと思う。今後、中学校の休日の部活動が地域移行されるに伴って把握することは必要になってくる。一昨年、出身校の柔道の部活動指導を頼まれていったが、言葉だけでなくお互いが組み合って指導するが、1ヵ月ほど経ってから県の柔道連盟から資格がない人は指導していけないとの連絡があった。相手にケガを負わせた際に指導者の資格があるかないかで対応も責任も違ってくる。できれば有資格者に指導してもらい、ない場合は取ってもらいたいと思う。一番下の資格は取らせていただきました。

【会長】スポーツ少年団の場合はどのようになっているのか。

【委員】スポーツ少年団の単位団にはJSP0公認のスポーツ指導者が2名以上いなければならないとなっているため、最低2名はおいている。問題は、有資格者でない人も指導をしている。部活動の地域移行になった際に、担当する指導者は有資格者であってほしい。

【会長】昨年9月頃の新聞の情報であるが、三井住友海上などの民間企業が有資格を得るためにe-ラーニングでハラスメントや緊急対応などの講習を受けると公認の資格が取れるという

記事を見た。民間でもそのような動きが出てきているみたいである。スポーツ協会としても全面協力していきたい。

### 第3章 「施策の展開」 基本方針3 スポーツの活性化と推進

資料に基づき、事務局説明

**【委員】**現場から出されている意見を3点ほどお伝えしたい。1点目、受け皿となるコメっちさんについて、平日は地域指導者が指導するが休日は部活動ではなくなるため、指導者は変わることになるのか。11月に行われた地域指導者の研修会にて休日は部活動と違う種目をしてほしいとの話が合った。受け皿としてのコメっちさんではどなたが指導するのか。今とは違う方をお願いするのか、これまでと同じ方をお願いするか確認したい。2点目は、中体連について民間のクラブも参加できるように門戸を広げるよう話し合いが行われているが、“民間”となると誤解を招いてしまうのだが、中体連では地域スポーツ団体という言い方をしているが、現在要件を整備しているところである。はっきりしていることは、資格を持っている人、募集をかけて集まった人など条件を設けていくようである。地域スポーツクラブが中体連に出てもいいとなった場合、大会の参加に向けてその多様化に備える必要がある。本町では余目中と立川中の合同クラブがあるが、クラブとして出る場合は全て学校の管轄外となる。スポーツ少年団と同じ扱いになり、教員の引率もなくなる。部活として出るのか、スポ少として出るのか選択制になっていくと思う。地域クラブで出るとなると、部活では出られない。その受け皿をどこで整備するかというと、学校外の社会教育や競技団体、スポーツ協会で認可しなければならない。生徒が自分たちでグループを作ったり、保護者会で組織を作ったりしてもそれは認められないので、イメージとしてはスポーツ少年団のように町できちんと組織を整備していけば認可されると思う。柔道や体操など学校の枠にとらわれなくて、来年度から出ることができるようになる。まもなく県の中体連から各競技団体に説明があるようである。それを見越して、庄内町として地域スポーツクラブを立ち上げる協議ができないか検討が必要になってくると個人的に考えている。それにより持続可能な受け皿として機能していくと思われる。3点目は、学校の体育館は教員が管理しているが、地域移行により体育施設の管理も代わっていくのではないかと思う。そこで冬期、体育館での活動は寒いですが、これまで教員がいる場合はジェットヒーターをつけたりしていたが、教員が付かなくなった際に使えなくなるのかという意見も出ていた。

**【事務局】**1点目は、部活動では顧問の先生が教える、場合によっては地域指導者が教えているが、現在教育委員会が委嘱している地域指導者の同じ方を受け皿となるコメっちさんの方で委嘱していただく想定をしているため、平日と休日と違う方が指導することは考えていない。2点目は、教育委員会でもはっきりと見えていないところでもあるが、教育課と連携しながら情報を随時集めているが、近々県の中体連の説明もあるとのことなので、情報を集めながら調整していきたい。3点目の学校施設については、地域指導者が中心となって利用することになることから、施設の調整も含めてコメっちさんとも検討していきたい。情報があれば、教えていただきたい。

**【会長】**コメっちのジェットヒーターは使えるのか。

**【委員】**現在、総合体育館に3台、武道館に1台、体操センターに1台の5台ある。中学校に利用のたびに持っていくのは難しいため、コメっちのヒーターを学校に置かせてもらえるのであれば、貸し出しは可能と考える。ただし、灯油は満タン返しをしてもらうことにな

る。

【会長】それは、学校の方にも求めるのか。

【委員】学校でよしとなれば、そのような方法も考えられる。

【事務局】学校側で顧問が付かないとジェットヒーターが使えないとすれば、緩和して地域指導者のみの場でも使用できるように検討していくことになると思う。

【委員】コメっちの関係で、施策目標の令和12年度の「コメっちわくわくクラブ会員数」について、職員との話し合いで「500人」という目標を立てている。今までの経過の中で幽霊会員のような人もいたが、平成27年度に最高で454人いたことがある。その実績もあるので、500人とした。3-(1)具体的な施策で、「パーソナルトレーニングの充実」で、PR不足の部分もあるがNSCAというアメリカ発祥の資格を保有して職員が1名いる。主にトレーニングルームの指導に当たっているが、目的に合わせてトレーニングメニューや食事等の健康管理まで対応ができる。昨年からはじめて、月2~3人の依頼がある。今後PRをすれば受講者も増えていくものと思う。「職員の資質の向上」で、公認障がい者スポーツ指導員の講習を受けた職員はいるものの資格までは取っていないということであった。そのため、来年度職員の中で資格を取りたいと考えている。

【委員】計画の中で、高校生への支援という項目を設けていただきありがたい。本校の日中の通信制の部活で、施設を使わせてもらっている。卓球とバドミントンがあるが、県の大会でも上位を独占しており、全国大会に出場している。体操部も非常に強いが、体育館で練習をする際は、機材を出し入れしている。そのような状況もあり、難しいとは思いますが体操専用の施設が欲しいと思っている。先日のスポーツ協会の表彰式の名簿を見ると、体操で多くの小中学生が表彰されていて頑張っているようである。体操はとても危険を伴うため、きちんとした設備や指導者がいないと怪我をする恐れもある。強化するためには、将来的に体操専用の施設を作っていただければと思っている。中学校の部活動が任意加入となっているとのことであるが、高校もそのような学校もあり、最近ではコロナの影響によることもあるが、運動部に入る生徒が減っていたり部活動に参加しない生徒が増えたりしている。そのため、野球、サッカー、バスケなど団体が組めず、試合に出られないという状況が出てきている。本校のみならず大きな学校でも同じような状況があり、色々な学校でこのような問題が起こっている。中学校で地域移行が進められてきているが、高校でも進めていかなければいけないのでは考えている。各校にやりたいと思っている生徒が一堂に集まって、一緒に練習できる、指導者から指導を受けられる体制が必要である。鶴岡市を例にすれば、アーチェリー部のようにゆみーる小真木に各校の生徒が集まって練習をし、オリンピック選手まで輩出している状況にある。庄内町が体操の拠点になり、他校の優秀な生徒も集まって練習し、将来的にオリンピック選手の排出や県内外から生徒が集まってくるようになればと思っている。

【委員】「地域に根ざしたスポーツ・レクリエーションの充実」で、各まちづくりセンターのホールは軽スポーツぐらいは出来るため、スポーツを楽しめる場にできたらと思っている。ボッチャやモルックのような簡単なスポーツなら、集落の代表の方々へ講習会をやることもできるし、実際行ったこともある。楽しさを覚えるとその後に発展していくということもあるので、集落でも簡単にできるスポーツを普及していきたいと感じた。スポーツを教えていただく際に、道具も一緒に貸し出しをしてもらいたい。

【会長】体育館に、ボッチャやモルックがあるということを町民の方は分かっているのか。

【委員】総合体育館には、ボッチャ1セット、モルック2セットある。申請をしてもらえば無

料で貸し出ししている。酒田米菓で購入が可能である。

【事務局】スポーツ推進委員でも1セットあり、総合体育館同様集落等で利用したい場合に貸し出しは可能である。しかし、道具があるという発信はしていない。今後は、発信していきたい。

【委員】ボッチャは、清川まちづくりセンターで2セット保有している。

【会長】酒田米菓では、講習会も開催している。

【事務局】スポーツ推進委員は、ボッチャ、モルックの研修会を受けているので、集落でやってみたいという場合は、各地区に推進委員の方々がいるので指導も可能である。

【委員】1つ要望だが、ボッチャをする場合テープでラインを引いてコートを作らなければいけないが、総合体育館でコートを作ったとしても他の団体が利用する際にラインが分からなくなるため剥がさなければならなくなる。コートは購入できるので、教育委員会で購入していただくとありがたい。

【会長】先日、放課後子ども教室でモルックを行ったが、子ども達の歓声が聞こえてきて楽しそうであった。モルックは、木を飛ばしながら遊ぶ競技なので、体育館の床を傷つけてしまう恐れがある。そのため、あまり利用実態のない立谷沢体育館にシートを常時引いていつでもプレーできる環境があればいいと思っている。そうすることにより利用が増えていくのではないか。

立谷沢まちづくりセンターにて話を聞いている際に、立川時代は何か行事をする際に常に送迎があったため、その名残があり送迎がなければ参加しないという考え方をしている方もいるようである。そのあたりの考え方も変えていかなければいけないのかと感じたところである。立川をモルックやボッチャの聖地にして、特徴がある施設にしていければと思っている。

【事務局】委員の皆さんより多くの意見をいただいたが、この場での結論を示すことはできないが、体操センターの件について指導者、保護者の方々と意見交換をさせていただいた。かなり老朽化しており、永続的に利用していくのは難しい施設となっている。先ほど、池田委員からは専用施設をとの意見もいただいたが、なかなか町で新しい施設を作っていくのは難しい。今後、検討していきたい。シートについては、調整させていただきたい。

【委員】コメっちにて、スポーツ振興くじの toto を利用してマイクロバスを整備したいと考えていたが、コロナ前、オリンピック前までは申請をすると無償でもらうことができたが、今年度調べると上限が500万円までとなっており、その金額では中古でかなり性能的に悪いものしか調達できない。総合型地域スポーツクラブのコメっちの自主事業の予算では購入することが難しい。町と相談していきたいと思っている。今すぐに配置してほしいというものではないが、町でも考えてもらいたい。

(4) その他  
特になし

## 7 その他

次回審議会の日程：2月3日（金）13：30～ 入札室

【事務局】審議会委員の任期について令和4年度までとなっており、令和5年度から新たな任期となる。充て職の方もいるが次期任期も引き続き委員を引き受けていただきたい。

## 8 閉 会